京都第一赤十字病院キャリアパス

教育の目標
1. 赤十字の職員として人々の尊厳と命を守り、行動できる。
2. 専門職業人として、自律的に看護実践能力を高め、質の高い看護サービスが提供できる。
3. 高度急性期医療の提供を社会的使命とし認識し、チーム医療を推進できる。
4. 教育施設としての役割を理解し、次世代を育成することができる。
5. 組織の一員としての立場と役割を認識し、経営参画できる。
6. 災害時に率先して救護活動ができる。

令和2年4月改訂

目指すレベル	看護実践者	
Ⅴ	施設単位	対象や家族にエンパワメントしながら卓越した看護サービスが提供できる。
		組織横断的な活動を行い創造性を持った実践を重ねることができる。
		医療・看護の質の向上に貢献することができる。
		赤十字事業の推進に向けて組織的な取り組みを実施している。
Ⅳ	部門単位	意思決定基準を持ちながら、予測困難な場面においても臨機応変な対応ができる
		看護専門職・役割モデル・赤十字の推進者としてスタッフに影響を与える存在
		看護部の目標を踏まえ、職場内の活性化に貢献できる
		研究活動を中心的に行い、教育活動も意図的な関わりができる。

看護管理者	
管理Ⅳ	施設運営の幹部として活動し、部門運営の責任を担うことができる
管理Ⅲ	部門運営に於いて担当する役割の責任を担うことができる
管理Ⅱ	部署運営の責任を担うことができる。
管理Ⅰ	部署運営において担当する役割の責任を担うことができる。

国際活動要員	
国際Ⅳ	国際活動における任務を理解し役割を遂行できる
国際Ⅲ	国際活動に求められる実践能力を培い、活動のための準備ができる。
国際Ⅱ	国際活動に求められる基礎的な実践能力を培うよう努める
国際Ⅰ	国際活動に必要な基本的知識を身につける

看護教員	
教員Ⅳ	学校経営の幹部として、教育及び学校運営の全般的な責任を負うことができる。
教員Ⅲ	看護教員として、専門性を高め、リーダーシップが発揮でき、後輩教員の指導ができる。
教員Ⅱ	看護教員として自己を探求し、主体的に教育実践ができる
教員Ⅰ	看護教員として自覚を持ち、看護基礎教育について理解できる。

目指すビジョンを考えよう！

急性期病院で自律した看護職へ

キャリアアップのためのアクションプラン				看護実践能力の指標
・部署の課題を考え問題解決を図ってみる。 ・教育担当者を行い教育計画を立案してみる。 ・急性期病院の看護師として部署異動し、専門分野の看護技術やスキルを高める ・看護研究を行う。	Ⅲ	自律して部署単位で活動	Ⅱ取得後3～4年	赤十字看護師として必要な研修を受講し、さらに任務と心構えを理解し、救護活動を実践できる状態にある。
				看護部門の目標を意識しながら、部署のリーダーシップ（看護実践と委員会活動で養う）を取ることができ、研究計画書の立案や業務改善に積極的に取り組み、同僚の指導に関わることができる。
				様々な知識(部署異動をして経験の幅を広げる)を活用しながら、対象個別性や優先度を考慮した計画を立てて看護をする事ができる。
・自己の看護を深める。 ・部署の課題を考えてみる。 ・実地指導者として、後輩指導を経験する。 ・学生臨地実習指導者を経験してみる。 ・院内留学制度の活用や部署異動して、自己の方向性を考え視野を広げる。 ・看護研究に協力する。	Ⅱ	自立して看護活動	Ⅰ取得後2～3年	災害救護演習などで救護活動の実践能力を養うように努めている。
				自ら、受け持ち患者にかかる医師やコメディカルに提案したり、倫理的問題に気づくことができる。
				目標をもって、自己教育や研究活動を行い、新卒看護師の心理的支援ができる。
				専門領域における知識を深め、対象の優先度を考慮した整合性のある計画を自力で立て、実践することができる。
・看護技術や知識だけではなく、専門職としての姿勢を先輩から学ぶ。	Ⅰ	指導や助言を得ながら看護活動	入職後1～2年	倫理的ジレンマに陥った時、赤十字の原則に基づいて行動しようとしている。
				看護者の倫理要綱を知っており、対象を一個人として尊重できる。
				自分の役割と責任を認識しながらも、自分の能力を越えた看護が求められる場合には、支援や指導を自ら得たり、業務内容について相談できる。
				マニュアルを見たり、助言を受けながら、日常に必要な基本的知識を活用し、優先度を決定することができる。